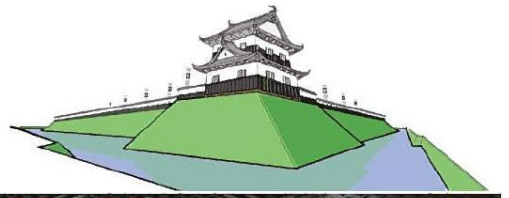




# 黒野城と

# 加藤貞泰公研究会



岐阜県博物館 マイミュージアムギャラリー

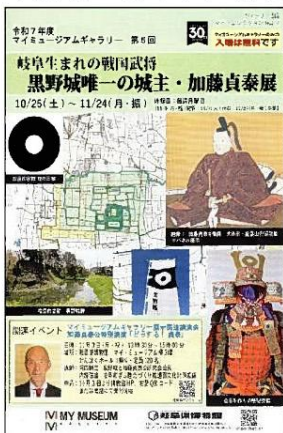
## 会報

# 甦る! 黒野城

## 2026.04 vol. 14

岐阜県博物館で加藤貞泰展開催

令和7年10月25日(土)～11月24日(月・振)に岐阜県博物館マイミュージアムギャラリーにて、「岐阜市生まれの戦国武将 黒野城唯一の城主・加藤貞泰展」を開催。県内外各地から延3,500名の来訪者があり、加藤貞泰公と黒野城を広くアピールできました。



左：加藤貞泰展  
案内パンフレット

中：11月3日  
けんぱくホール  
特別講演会  
「どうする! 貞泰」  
100名を超える事前  
申込者で会場は満員

右：東海環状自動車道  
岐阜IC  
出口に「黒野城跡」  
案内標識



## 柴橋市長と意見交換

6月10日(火)、黒野会館で柴橋岐阜市長と研究会有志との間で意見交換会が行なわれました。

市長からは歴史景観の整備、岐阜1C開通の取組みなどの基調報告があり、研究会からはパネル展、講演会などの活動報告、黒野城跡の調査や整備などの要望を行ない有意義な会となりました。



## 江崎知事 黒野会館まつり来訪

11月9日(日)、毎年参加の黒野会館まつりに江崎岐阜県知事が来訪され研究会の展示コーナーを見学されました。

今年は同時期に重なった県博物館での出展に資料を多く展示したため今川七面堂パネルと紙芝居7作品の紹介展示となりました。



## 七面堂 格天井絵100枚初公開

今川地区にあった七面堂(120年前の明治時代の建造物)が解体された際に回収された天井絵100枚の展示会が、4月26日(土)・27日(日)の両日、今川公民館で行なわれました。

天井絵は檀家伊原隆氏が保存管理していますが、檀家以外には見る機会がありません。格天井絵の他、堂の測量図や概要もパネル展示。市内外から235名が来場し、花鳥や人物の日本画を熱心に鑑賞され、地域の歴史文化を紹介することができました。

また冊子「岐阜市今川 七面堂・格天井絵図録」が200冊発刊され、図書館や関係者に寄贈されました。



## 黒野歴史探訪「古市場・折立・今川の史跡めぐり」



10月11日(土)、毎年恒例の黒野まちづくり協議会主催、黒野歴史探訪「古市場・折立・今川史跡めぐり」を行ないました。一般参加者、岐阜大学看護学科学生、マスコミなど合計69名が参加。古市場公園に参集し、まちづくり協議会の挨拶後にスタート。市原家住宅・超勝寺・外堀などを見学し、今川公民館に到着後、旧七面堂の天井絵を鑑賞。馬頭観音・八幡神社や大杉の見学を経て帰途へ。

最初は小雨で途中から曇り空になり少々肌寒い天候でしたが、交通安全部会等の協力もあり無事終了。史跡めぐりは参加者に大変好評で、CCNテレビのエリアトピックス番組にも紹介されました。



# 「貞泰と関ヶ原合戦」5,000部発行



**学ぼう！若き黒野城主** （経歴生まれ）  
**加藤左衛門尉貞泰と**  
**関ヶ原合戦**

■ 天下分け目の関ヶ原合戦  
 慶長5年(1600)9月15日、豊臣秀吉と徳川家康の政治体制を決める天下分け目の大戦が黒野関ヶ原で行われました。関ヶ原は盆地で、西には黒山、北に黒山、伊勢街道が交わる交通の要所。この地に黒野7万5千、街道8万4千の大軍が集結し、黒野より戦いの火が広がりました。  
 ■ 幕までは、東軍・西軍必死の闘いで互角ではあったが、西軍小早川秀秋らが裏切り、黒野山に陣した毛利元就の宇部加もあって東軍の大勝利に半目で終わった。

■ 関ヶ原の前哨戦・犬山城の攻防  
 関ヶ原合戦に至るまで、黒野の地でも東軍・西軍入り乱れての戦いが展開された。黒野城主、加藤貞泰(20歳)は、秀吉に忠告し、家康の天下を助けており、戦後城主加藤貞泰とともに上杉景虎に加わる準備をしていた。しかし、家康は、三成からの高麗に仲介するなどに決めたため、黒野の多くの武将はこれに従った。

■ 犬山城の無血開城に貞泰貢献  
 犬山城は東軍で唯一の西軍の拠点として黒野城を守る重要な城。8月上旬より加藤貞泰ら黒野武士が侵入していたが、貞泰と竹中重門は義理の兄弟で共に協力、三成との確執もあって、黒野勢を懐柔し、東軍への加担を決め、東軍のために開城を企てた。これにより犬山城が開城し、黒野・新加納の戦い、竹中重直の戦い、黒野城の落城、河津川の戦いにつながり、大坂城が築城に立たされ、決戦地の関ヶ原となった。

若き黒野城主加藤貞泰の関ヶ原合戦での活躍を広く知ってもらおうと前哨戦から本戦について詳しく掲載し、弟の平内の動向なども紹介しています。

印刷には、岐阜市郷土の宝顕彰事業補助金や地域の事業者の寄付金で5,000部発行。岐阜関ヶ原古戦場記念館など関係先に配布されました。

裏面は、「訪ねてみよう！黒野城下町」の改定第4版を印刷しております。

「貞泰と関ヶ原合戦」は黒野会館で入手できます。

# 喫茶店でもパネル展



折立珈琲ベルンの久世晴久店長から、加藤貞泰や黒野城のパネル展示を要望され、県博物館での展示会終了後の11月29日(土)~12月30日(火)に会員5名でパネル14枚を選択して壁面に展示しました。ベルンは十六銀行黒野支店の隣でもあり、毎日、地域の利用者が多く、パネルで黒野城のPR活動ができました。

# F M わっち (78.5MHz) てにておラジオ番組出演



県博物館の加藤貞泰展で尉殿堤に強い関心を持たれた てにておラジオ「私んたの長良川やて」の司会兼プロデューサーの大森一恵さんから出演依頼があり、研究会から2名(河口・名知)が出演し「貞泰と尉殿堤」をPRしました。

2月18日(水)19時~ 及び 2月22日(日)12時~ に14分番組で放送されました。

# 「おとなの夜学」第58夜 黒野の歩き方A面からB面まで



まちづくり推進で活躍中の蒲勇介氏の主催する「おとなの夜学」への出演依頼があり、「黒野の歩き方A面からB面まで」のテーマで黒野城をしっかりとPRしました。

会場はメディアコスモス2階のシビックプライドライブラリーで約40人の来場者とZoomを用いたオンライン配信が行なわれ、その模様は中央図書館HPで公開中です。

A面は河口による黒野城の歴史、B面はTeam酷道の香取茂雄氏による黒野の魅力・二の丸資料館の紹介などを90分たっぷりPR。



# 薄墨桜の苗木植樹、その他



黒野城跡の看板清掃



薄墨桜の苗木植樹



二十歳のつどい 紙芝居上演



東栗郡薄墨別荘消促促進連絡協議会の県外視察  
 2025(令和7)年11月16日(土)  
 岐阜市黒野共栄館  
 「黒野地区の歴史にかかわって」  
 黒野城と加藤貞泰研究会 会長 河口 三

滋賀県栗東市職員 来訪



ふるさとのつたえ話 紙芝居上演



黒野小子どもまつり 紙芝居上演



### 第1話 3つの加藤家

天下人となった豊臣秀吉に仕えた加藤姓の武将は3人おり、家紋は蛇の目紋ですが全く別々の家系です。

武将名	加藤 光泰 貞泰	加藤 清正	加藤 嘉明
生没年	光泰：1537～1593 貞泰：1580～1623	1562～1611	1563～1631
出生地	光泰：美濃多芸郡(養老町)または美濃今泉村(岐阜市) 貞泰：美濃今泉村	尾張中村(名古屋) 秀吉と同郷・親族	三河幡豆郡(西尾市)岸家
主な武功	秀吉天下取り	賤ヶ岳七本槍	賤ヶ岳七本槍 水軍を指揮し、 四国攻め・九州攻め・小田原攻め
	朝鮮出兵	文禄の役で参戦、 三成の讒訴(ざんそ)で帰国監居 慶長の役に参戦 (虎退治で有名)	文禄の役で水軍を率い参戦 慶長の役に参戦
	関ヶ原の戦い	貞泰：東軍として参戦 犬山城の開城 本戦で黒田長政、 竹中重門と共に戦う	東軍として参戦、九州の地で戦う
叙任	光泰：従五位下遠江守 貞泰：従五位下左衛門尉 左近大夫将監	従四位下肥後守	従四位下
城主・石高	光泰：美濃大垣城主(4万石) 甲斐甲府城主(2.4万石) 貞泰：美濃黒野城主(4万石) 伯耆米子城主(6万石) 伊予大洲城主(6万石)	肥後熊本城主(5.4万石)	伊予松山城主(2.0万石) 磐城会津城主(4.3万石)
子孫その後	大洲藩主として、 13代明治維新まで続く	子：忠広 不行跡による改易後 一代限りの1万石 孫：光広 自害(断絶)	子：明成 領地返納による改易後 石見吉永(1万石) 孫：明友 近江水口(2万石) 以後明治維新まで続く
その他	-	-	近江時代、加藤光泰の父景泰に見い出され加藤姓を賜り、秀吉に仕える

### 第2話 「豊臣兄弟」に仕えた加藤貞泰の父光泰

加藤貞泰の父加藤光泰は、天正13年(1585)に秀吉の命で近江国高島2万石から美濃国大垣4万石に加増転封され、秀吉の蔵入2万石も預けられました。そのお礼で聚楽第へ参勤の際、秀吉公の御前で光泰の一言の誤りにより、蔵米を家来に宛てられたと秀吉に誤解され勘気を蒙り、光泰は改易され秀吉の弟秀長の大和国郡山へ預けられました。郡山では秀長より1万石を与えられるも光泰の家臣は所々へ散りました。その後、秀長から大和国秋山2万5千石を与えられ、秀長の重臣になりました。

天正15年(1587)、光泰は遠江守に叙任され、秀長と共に京都御所の正親町上皇に参上しました。また毛利輝元が郡山を訪れた際、能の饗応を受けた場に光泰が同席しました。光泰は優れた武将の一人でした。その後、秀長の重臣から外れて秀吉の家臣に戻り、近江国佐和山2万石に処せられましたが、秀吉の小田原北条攻めによる天下統一後に秀長は病死します。後に光泰は甲斐国主2.4万石に加増転封。文禄の役で朝鮮に出兵しましたが、現地で死去(56歳)します。その5ヶ月後に、嫡男の貞泰は加藤家を継ぎ、出生地である美濃国黒野4万石で入封しました。

### 令和7年度 ご寄付いただいた事業者さま(敬称略・順不同)

新日本ガス株式会社 / 香風会 黒野病院 / 誠広会 平野総合病院 / ヨツハシ株式会社 / 西村歯科医院  
株式会社平成調剤薬局 / 立山クリニック / 久世工業株式会社 / 友とびあ / 杉浦紙工株式会社  
みながわ内科循環器科クリニック / 杉浦紙工株式会社 / 株式会社杉山興業 / 株式会社むつみ

### 会報『甦る！黒野城』Vol. 14

発行者：黒野城と加藤貞泰公研究会  
発行年月：令和8年4月(2026)  
編集者：篠田哲郎・河口耕三・信田朝次  
問合せ・連絡先：HP facebook.com/kuronojyo  
TEL 090-1786-6564 河口耕三

### ～ 編集後記 ～

令和7年度は、岐阜県博物館マイミュージアムギャラリーでの資料展示という最大イベントの他岐阜IC出口の黒野城跡の案内標識、黒野会館まつりの県知事訪問、市長との懇談会など、数多くの行事で盛り上がりました。非常に充実した1年間でした。今後も研究会を宜しく願います。

編集担当：篠田哲郎

